

令和 8 (2026) 年度 地理歴史 科 シラバス

科目	地理総合	単位数	2	履修規定	1年 全クラス	文系	必修
教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)	副教材	新詳高等地図 高等学校 新地理総合ノート			担当者	高山一洋 熊谷匡通

1. 学習の達成目標

グローバルな視点での国際理解や国際協力のあり方、地域的な視点での防災やその他の諸課題、環境問題の解決など持続可能な社会づくりを目指して知識やデータをもとに考察する力を育む。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 「なぜ」を意識し、学ぶ知識に加えてそれを活用して考えることが目的であること。
- 身の回りの地理的問題に意識を持ち、ニュースにも触れるよう心がけよう。
- 多くの資料やデータを使いながら、そこから何が読み取れるかに注目して学習しよう。
- 単なる暗記ではなく、課題解決的な学習ができるように意識しよう。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解 ・調査や地図や統計などの諸資料から、地理に関する情報を地理情報システムなどを用いて効果的に収集する、読み取る、まとめる技能	・地理に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、地域等の枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力	・地球規模の自然システムや社会・経済システムについて主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究する態度 ・よりよい社会の実現を視野に地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度
主な評価方法	・定期考査による評価	・定期考査による評価	・授業態度 ・考査に向けた取り組み 等

4. 学習および評価計画

※評価の観点:(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考査範囲	時数	
前期	4	第1部 第1章 地図と情報システム 1節 地球上の位置と私たちの生活 2節 地図の役割と種類 2章 結びつきを深める現代社会 1節 現代世界の国家と領域	地球上の位置の違いがもたらす生活の違いや時差の影響と、地図の種類について学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第1部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価	第1回 期間中の既習範囲	14
	5	2節 グローバル化する世界 第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	国家の領域や国境、グローバル化に伴う世界各国の貿易や交通について学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第1部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価		
	6	1節 世界の地形と人々の生活 2節 世界の気候と人々の生活	私たちの身の回りの地形や河川、海岸や気候の違いと、それらの生活との関わりについて知る。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価		
	7	追究事例 自然1・自然2 3節 世界の言語・宗教と人々の生活 追究事例 宗教1・2	オセアニアや東南アジアの自然と生活、イスラムやヒンドウー教と生活について理解する。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価		
	8	4節 歴史的背景と人々の生活 追究事例 歴史1	ラテンアメリカの移民の歴史と、その後の文化融合で生まれた新しい生活文化を知る。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価		
	9	追究事例 歴史2・歴史3 5節 世界の産業と人々の生活	植民地支配の長かったアフリカ諸国、国家の体制が大きく変わってきたロシアについて学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価	第3回 期間中の既習範囲	20
10	追究事例 産業1・産業2・産業3 第2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球的課題	アメリカの産業、経済成長が進む東アジア、地域統合を進めるヨーロッパについてそれぞれの特徴を押さえながら、それらがもたらす世界への影響を理解する。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価			
11	3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題	地球的課題を知り、SDGsとの関連も理解しながら、地域で異なるエネルギー問題、人口問題について学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価			
後期	12	5節 食料問題 6節 都市・居住問題	飢餓や飽食といった食料問題と都市・居住問題について理解し、どのような対策がとられているかを知る。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価	第4回 期間中の既習範囲	22
	1	第3部 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災	日本の自然環境を学び、地震や津波、火山といった災害とその対策について私たちができることを理解する。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価		
	2	4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え	大雨や大雪などの気象災害の仕組みや、それらへの対策、備えについて学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価		
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望 1節 生活圏の調査と地域の展望	身の回りで見られる地理的な課題について調査の仕方や準備、発表までに必要な知識を学び、実践する。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加えて、「第2部のなかで気になるテーマ」をもとにしたレポート等により評価 (c)意欲的な授業への取り組みやレポート等により評価		

令和 8 (2026) 年度 地理歴史 科 シラバス

科目	歴史総合	単位数	2	履修規定	1年 全クラス	文理	必修
教科書	『明解 歴史総合』(帝国書院)		副教材	明解 歴史総合図説シンフォニア』(帝国書院)		担当者	高山・早苗

1. 学習の達成目標

日本と世界のつながりが強まる近代以降の自国史と世界史を横断的・相互的に学び、グローバル化が進んだ現代の諸課題について歴史的な見方や考え方を働かせながら考察できる力を養えるように学んでいく。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 歴史と現代の諸課題を関連づけるため、日々のニュースなど身近な問題について見るように心がけよう。
- グローバル化する国際社会で生きるために、日本だけでなく世界の歴史も知ることが重要。
- 資料をもとに比較して、類似や差異を見つけたり出来事同士を因果関係で関連づける意識で学ぼう。
- 歴史的事象の暗記ではなく、歴史の学び方を習得することが目的であることを忘れない。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史についての理解 ・諸資料から歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史についての諸事情等の意味や意義、特色や相互の関連について概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に関わる諸課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力	現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史について主体的に調べ分かうとして課題を意欲的に追求する態度
主な評価方法	・定期考査による評価 ・ ・ ・	・定期考査による評価 ・ふりかえりシート ・レポート ・	・ふりかえりシート ・レポート 等 ・ ・

4. 学習および評価計画

※評価の観点：(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考査範囲	時数	
前期	4	1部 歴史の扉 2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結びつく世界(1-2)	資料の読み取り方と、江戸と世界の結びつきについて学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「近代化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	14
	5	1章 江戸時代の日本と結びつく世界(3-4) 2章 欧米諸国における近代化(1-5)	江戸時代後期の世界との関わりやヨーロッパの革命や産業革命といった近代化の動きについて学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「近代化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	
	6	3章 近代化の進展と国民国家形成 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国(1-2)	帝国主義政策の動きやアジアとヨーロッパの結びつき、アジアの動揺について学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「近代化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	14
	7	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国(3-5) 5章 近代化が進む日本とアジア 「近代化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えよう 3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章	ヨーロッパの日本接近から開国、そして日清・日露戦争に至る経緯と、これまでの近代化の振り返りから現代の課題とを結びつけて考える。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「大衆化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	
	8	1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり(1-3)	第一次世界大戦が与えたアジアや中東への影響と、日本との関わりについて学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「大衆化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	
後期	10	2章 国際協調と大衆社会の広がり(4-6) 3章 日本の行方と第二次世界大戦(1-3)	世界恐慌からファシズムにつながる流れを学習し、満州事変につながる日本の動きを把握する。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「大衆化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	20
	11	3章 日本の行方と第二次世界大戦(4-7) 4章 再出発する世界と日本(1-3)	日中戦争と第二次世界大戦、その後の戦後処理までの流れをおさえる。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「グローバル化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	
	12	4章 再出発する世界と日本(4) 「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り、現代的な諸課題と結びつけて考えよう 4部 グローバル化と私たち 序章	第3部の振り返りとグローバル化についての考察を行う。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「グローバル化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	22
	1	1章 冷戦で揺れる日本	冷戦の流れと日本の戦後復興、第三勢力の脱植民地化について学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「グローバル化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	
	2	2章 多極化する世界	経済大国として歩み始めた日本や、その他の国々の復興と発展について学ぶ。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「グローバル化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲	
3	3章 グローバル化のなかの世界と日本	冷戦の終結や、超大国アメリカと中東諸国との関わりの中で国際社会の姿容について学習する。	(a)定期考査の点数により評価 (b)定期考査に加え、「グローバル化」のまとめによる思考・表現を見る (c)意欲的な取り組みやレポートにより評価	既習範囲		